

ダイアグノスティクス事業

医療に不可欠な臨床検査は、体内から採取した血液や尿などを調べる検体検査と、レントゲンや心電図など身体を直接調べる生体検査に分けられます。シスメックスは、検体検査領域を中心にダイアグノスティクス事業を展開し、医療機関などのお客様に、機器・試薬・ITをグローバルに提供しています。

検体検査は、予防のための健康診断や、病気の診断、治療方針の決定、治療中の投薬効果測定や重症化予測、治療後のモニタリングなど、さまざまな場面で行われています。正確な検査結果を持たずに医療を行うことは、行き先も分からずに霧の中を歩いているようなもので、患者さんの状態を正確かつ迅速に把握し、最適な治療方針を定めるためには、検体検査が必要不可欠です。

検体検査の中でも、シスメックスの主力事業であるヘマトロジーや尿検査、免疫検査は、患者さんの容体を確認するために行われる基礎的な検査であり、健康診断などの予防・早期発見の段階から病気の治療や予後の管理まで幅広い場面で活用されています。一方、血液凝固や遺伝子検査などは、より詳細に身体の状態を測定する検査であり、主に病気の診断から治療のプロセスの中で活用されています。

■ダイアグノスティクス事業領域

医療活動

予防

健康診断

精密検査

治療・手術

効果判断

予後

臨床検査

検体検査

・ヘマトロジー*
(血球計数検査)

・血液凝固検査

・尿検査*

・免疫検査*

・生化学検査*

・遺伝子検査

・その他
(FCM、薬剤耐性検査など)

Sysmex(ダイアグノスティクス事業)

生体検査

・画像診断

・心電図測定

・呼吸機能検査

・脳波計測

・超音波検査 など

※ 健康診断でも行われる検査

メディカルロボット事業

近年、外科手術において、患者さんの身体的負担軽減などを目的に、低侵襲である腹腔鏡手術が行われるようになってきました。一方、本手術には高い技術力が求められ、これを補完する手術支援ロボットが医療従事者より注目を集めています。現在は、泌尿器科や消化器外科、婦人科、呼吸器外科などへと術式の保険適用拡大が進み、徐々に手術支援ロボットを用いた手術件数が増加しています。また、医療アクセス向上の観点から、遠隔医療での活用も検討されており、医師と患者さんが離れた場所でも手術を行うことが可能となる日も遠くないといわれています。

このような中、シスメックス株式会社と川崎重工業株式会社の合併会社である株式会社メディカロイドは、国産発の手術支援ロボットシステムを開発しました。シスメックスはグローバル総代理店として2020年より国内で販売を開始し、本製品の導入を加速させるとともに、海外では2023年にシンガポール、2024年にマレーシア、2026年6月にベトナムにおける薬事承認を取得しました。また、EMEA地域でも薬事申請を実施するなど、グローバル展開を推進しています。

検体(血液、尿、がん組織など)から分かること

検体検査

血液の検査

■ヘマトロジー(血球計数検査)

赤血球や白血球などの数や種類、大きさを調べる検査
[関連する疾患:貧血、白血病、血小板減少症など]

■血液凝固検査

血液を固めて傷口を塞ぐ機能(凝固系)、血栓を溶かす機能(線溶系)を調べる検査
[関連する疾患:血友病、血栓性疾患(心筋梗塞、脳梗塞など)など]

■免疫検査

ウイルス、ホルモン、タンパクなどの状態を調べ、病気の原因や種類などを判定する検査
[関連する疾患:感染症(B型／C型肝炎)、甲状腺疾患、各種がん、心筋梗塞、アルツハイマー病、アトピーなど]

■生化学検査

代謝に関わる臓器の状態を、糖や脂質、タンパクなどの成分から調べる検査
[関連する疾患:糖尿病、動脈硬化、肝機能障害、腎機能障害など]

がん組織・リンパ節の検査

■ライフサイエンス

(注)一部、血液検査を含む
がん遺伝子検査
がん遺伝子を検出・分析することにより、治療方針の決定や投薬の判断に貢献する検査
[関連する疾患:乳がん、肺がん、大腸がんなど]

尿の検査

■尿検査

尿中の糖・タンパク・血液の有無などを調べる検査
[関連する疾患:尿路結石、腎臓病、糖尿病など]

■薬剤感受性検査

検出された病原菌に対する抗菌薬の有効性を調べる検査
[関連する疾患:尿路感染症など]

血管

赤血球

白血球

血小板

凝固因子

タンパク

ウイルス

ホルモン

糖

脂質

無機質

リンパ節

がん細胞

DNA

93 Sysmex Report 2026

Sysmex Report 2026 94

シスメックスの特徴

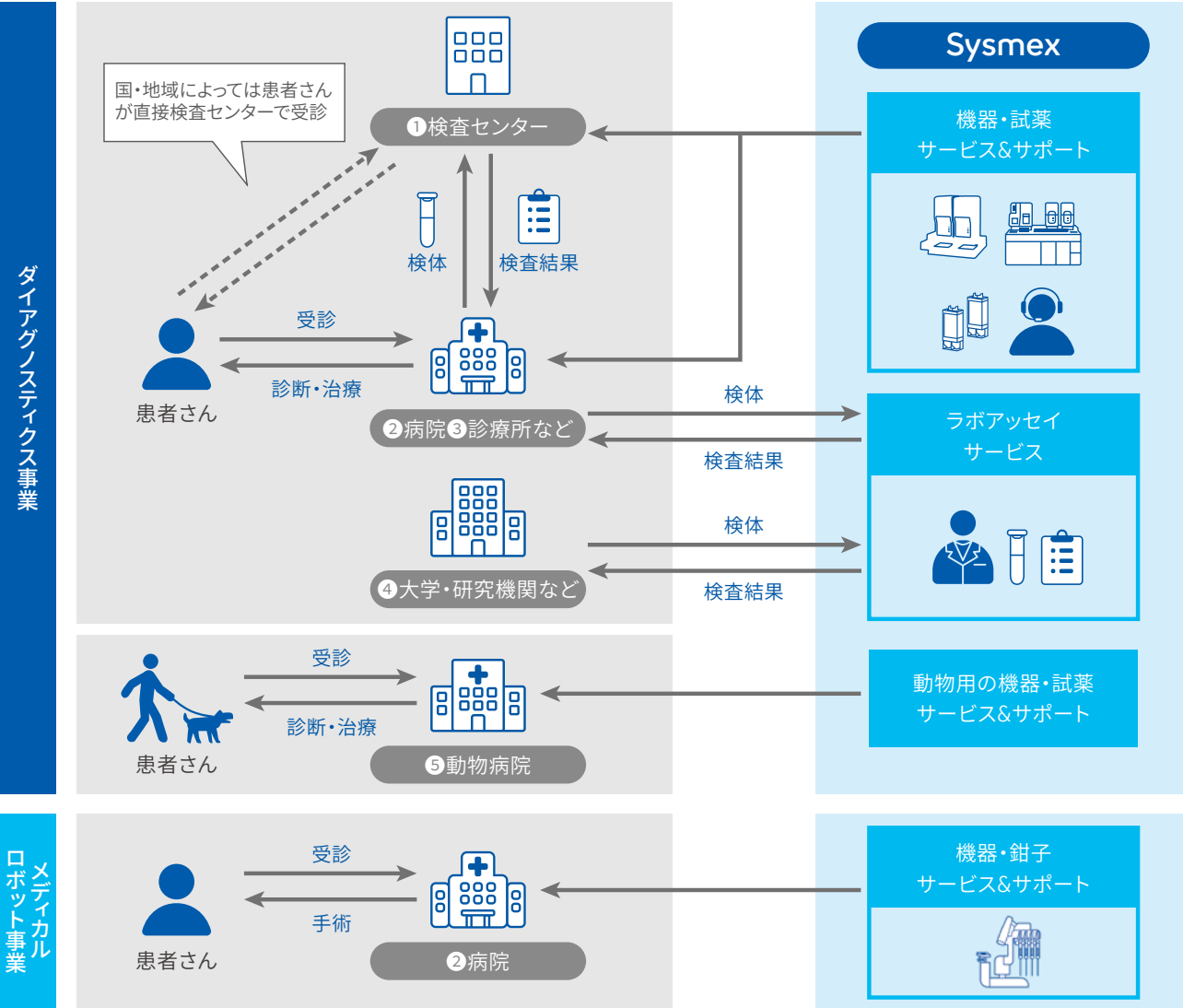
シスメックスの価値創造

中期経営計画と取り組み

コーポレート・ガバナンス

事業・企業情報

シスメックスの製品が活躍するところ



① 検査センター

検査機器を保有していない小規模な医療機関から検査を受託するほか、専門的な検査の受託なども行っています。1日に数万人の検体が集まることもある大規模な施設では、生産性の高い搬送システム製品などが活躍しています。

② 病院

検査室では、健康診断や外来・入院患者さんの診察に血液・尿検査などの製品が活躍しています。手術室では、手術支援ロボットやOSNA™法によるがんリンパ節転移検査が使用されます。

③ 診療所(クリニックなど)

小型で簡便な製品が活躍しています。

④ 大学・研究機関など(ラボアッセイサービス)

医療機関から検体を受託し、シスメックスのラボのほか理研ジェネシスなどにおいてタンパクや遺伝子解析の結果を返送するラボアッセイサービスを展開しています。医療機関以外にも、大学や研究機関、製薬会社からも測定を受託し、創薬や研究開発を支援する情報を提供しています。

⑤ 動物病院

犬や猫などのペットをはじめ、水族館や動物園の動物たちの健康管理にも製品が使用されています。

主な製品・サービス

ダイアグノスティクス事業

ヘマトロジー（血球計数検査）・FCM（フローサイトメトリー）検査

中小規模施設向けの基礎的な項目を測定できる白血球3分類モデルから、臨床的意義がより高く、使用する試薬数が多い白血球5分類モデル、さらに、大規模施設で大量検体の高速処理が可能な搬送システム製品まで幅広いラインアップの製品を揃えています。日本において、2021年には新たな白血球5分類の最上位モデルおよび白血球3分類のコンパクトモデルを、2022年には世界初の精度管理

物質自動測定機能を搭載したシステム製品を販売開始しました。2023年以降、最上位モデルのグローバル展開を進めており、2025年6月には米国での販売承認を取得しました。

さらに、ヘマトロジー検査後に、白血病や悪性リンパ腫などの精密検査として行われるFCM検査にも参入しています。検体前処理装置および、フローサイトメーター（研究用）を販売し、前処理から測定結果の取得までFCM検査フロー全体の自動化を実現。今後は、ヘマトロジー検査と連携したワークフローの構築など新たな価値を創出していきます。

■多項目自動血球分析装置



検査室の生産性向上を実現する最上位モデル

シスメックスは、1990年に世界で初めて、血球計数・白血球分類などの測定から塗抹標本作製までを完全自動化したヘマトロジー分野システムを開発しました。検査の自動化により、人件費の抑制に加え、検体取り扱い時の感染リスク軽減や検体の取り違い防止にも貢献しました。2021年に販売開始した最上位モデルは、前モデルと比較して処理能力が10%向上、異常細胞の検出性能が向上したほか、消費電力を40%削減(搬送装置の最大出力時)しました。さらに、「タッチフリーコンセプト」に基づいた周辺装置の組み合わせにより装置の立ち上げや精度管理、検体保管・検索などの作業を自動化し、手作業を徹底的に減らすことで、検査業務のさらなる効率化に貢献しています。



(注) 機器の配置は一例です。

血液凝固検査

血液凝固検査へのニーズは、生活習慣などに起因する血栓性疾患の増加や、新たな血液製剤の開発などを背景として、拡大かつ多様化しています。

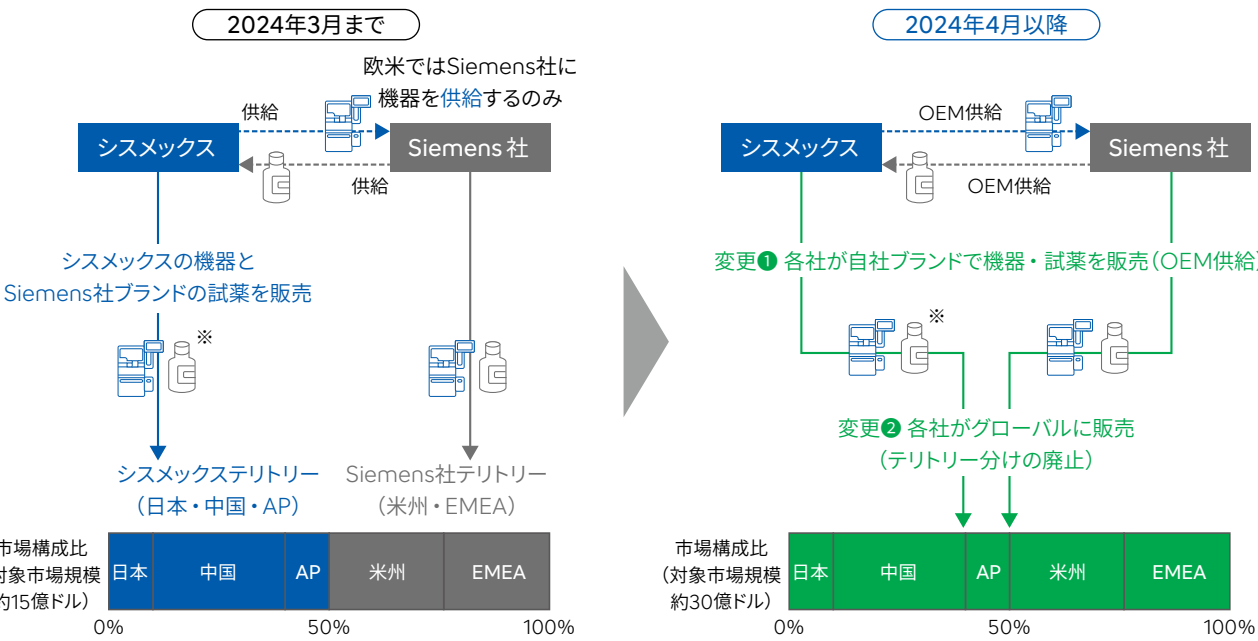
シスメックスは、施設の専門性や検査数などに応じた幅広いラインアップを展開し、多様な検査環境に対応しています。近年では、2025年に中下位市場向けのコンパクト



Siemens社との欧米における販売形態の変更などに関して

シスメックスは、1995年よりSiemens Healthineers社（以下、Siemens社）と血液凝固検査分野におけるアライアンスを通じて、グローバルに事業を展開してきました。従来は販売地域を分担しており、アジア地域ではシスメックスが、欧米地域[※]ではSiemens社が販売を担っていました。このため、シスメックスは欧米地域において、Siemens社へ機器を供給するのみで、直接販売は行っていませんでした。2024年4月、両社は血液凝固検査関連製品のグローバルOEM契約を締結するとともに、販売地域の区分を廃止しました。これにより、シスメックスは欧米市場においても機器・試薬を自社ブランドで直接販売できるようになり、自社販売市場は従来の約2倍に拡大しました。また、機器に加え、利益率の高い試薬についても全世界で販売できるようになり、事業拡大と収益性向上につなげています。

※ UK地域を除く



※ 日本ではシスメックス試薬を平行して販売。また、独自に開発した特殊試薬を一部海外地域で販売。
(注) 青色機器：シスメックス製造機器、灰色試薬：シーメンス製造試薬

尿検査

尿沈渣検査分野において世界で初めてフローサイトメトリー法を用いた尿中有形成成分分析装置を開発しました。また、アライアンスや販売代理店契約の活用により尿定性検査製品をポートフォリオに加え、多様な尿検査ニーズに対応するラインアップの拡充を進めています。さらに、2025年には日本で中下位市場向けモデルの販売を開始し、今後、グローバルに展開していきます。



生化学検査

シスメックスは2026年4月、日本電子株式会社の生化学検査事業を承継し、日本市場で高いシェアを有する生化学検査分野の製品群をポートフォリオに加えました。これにより、生化学検査分野へ参入し、試薬の微量化や高速検査処理を特長とする製品・技術を獲得しました。今後は、試薬メーカーとの協業を通じた試薬ビジネス拡大を図るとともに、グローバル販売網を活かし事業を展開していきます。

免疫検査

微量の検体で、高水準の感度・迅速測定を実現した全自動免疫測定装置を、日本およびアジア地域を中心に展開しています。試薬は、感染症や腫瘍マーカーなどの検査項目に加え、肝臓の線維化やアトピー性皮膚炎を検査する独自の項目を保有しています。さらに、アルツハイマー病検査の試薬の開発にも取り組んでいます。



薬剤感受性検査

尿路感染症が疑われる患者さんの尿検体を用いて、細菌の有無および抗菌薬の有効性を判定する迅速薬剤感受性検査システムを、2023年に欧州で販売を開始しました。本システムにより、従来数日を要する検査時間を最短30分に短縮することができ、クリニックなどのプライマリケアにおいて初診時の適正な抗菌薬の処方を支援します。



ICTソリューションCaresphere™

医療従事者向けに検査機器や臨床検査情報システムなどで管理しているさまざまな情報をリアルタイムに連携・解析するプラットフォームを構築しています。具体的には、外部精度管理ツールや機器の稼働状況などを通じて、検査室の品質管理や業務効率化を支援しています。また、機器の保守管理やリモートでの支援により、医療従事者の負担軽減と顧客満足度の向上に貢献しています。

がん遺伝子検査

独自で開発したOSNA法を用いて、がんのリンパ節転移診断などの補助となる情報を自動かつ簡便に検出する製品を展開しています。また、国立がん研究センターと共同で、固形がんの遺伝子変異を包括的に解析するがんゲノムプロファイリング検査用システムを開発しました。日本で初めて保険適用を受け、臨床現場で用いられています。

メディカルロボット事業

手術支援ロボットシステム

本システムの特徴である、日本国内の手術室サイズを考慮した設計、高い操作性を有するロボットアーム、高精細な3D画像などに加えて、動作状況をモニタリングするネットワークサポートを実装し、医療従事者のよりの確な施術を支援しています。

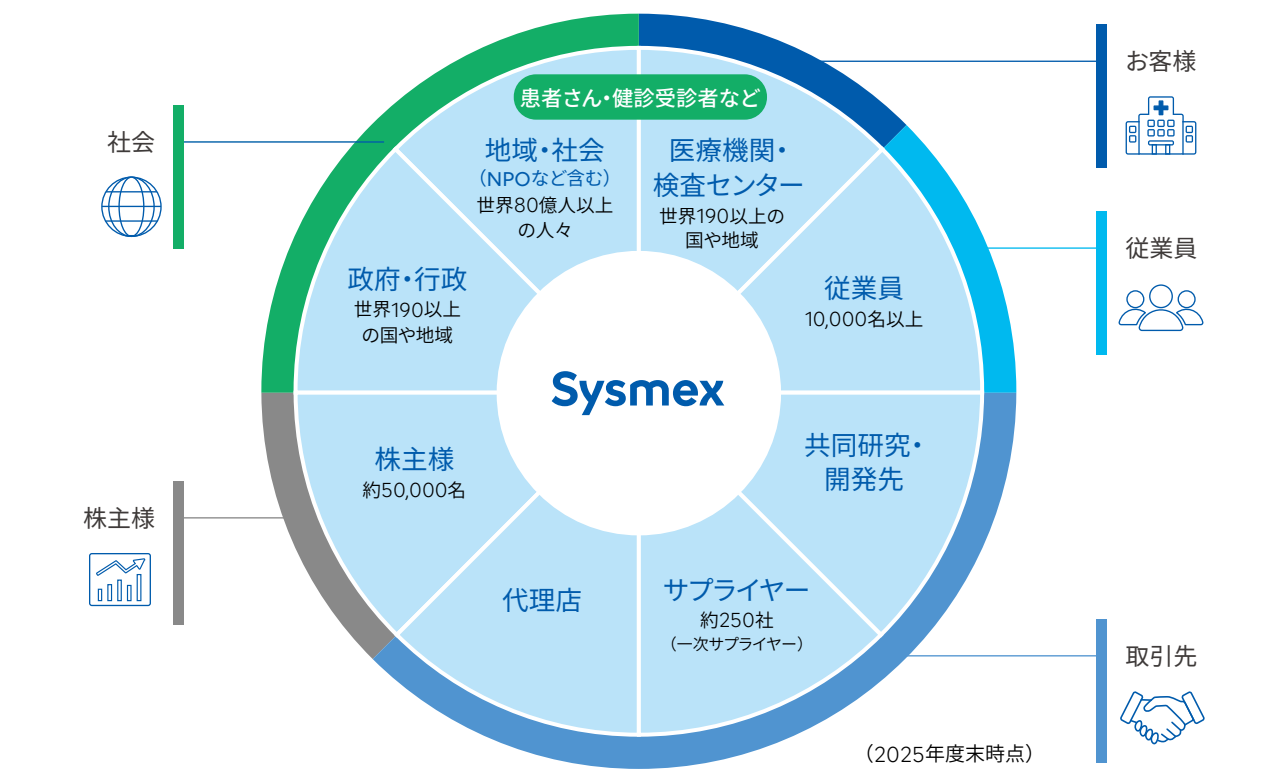


ステークホルダーエンゲージメント

シスメックスは、取引先・従業員とともに医療機関などのお客様に製品・サービスを提供することにより、医療課題・社会課題の解決に取り組んでいます。今後も、ステークホルダーの皆さまとの積極的な対話を通じて、より良い関係を構築するとともに、ご期待やご要望を事業活動に取り入れることで戦略の実効性を高め、ともに持続可能な社会の実現を目指します。

主なステークホルダー

円の外側はShared Values(➤P8)に基づくステークホルダーの分類



ステークホルダーとの主な対話

➤ Webサイト>サステナビリティ>サステナビリティ経営>ステークホルダーエンゲージメント

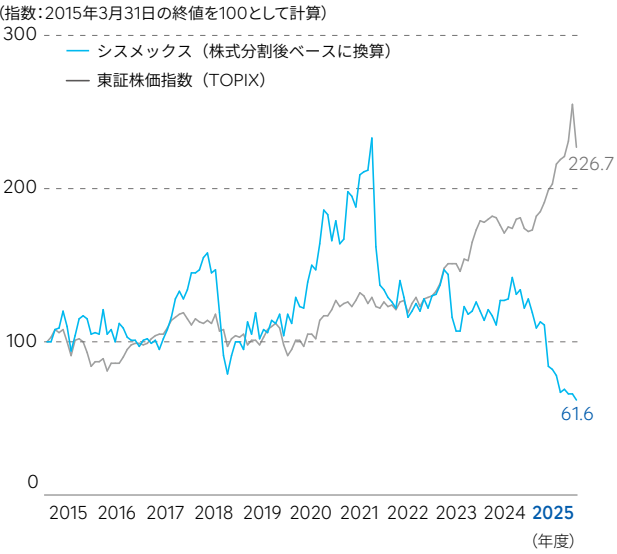
お客様	お客様に安心して製品・サービスをご利用いただくことに加え、期待を超える付加価値の提供を目指し、販売・サービス&サポート活動を通じた継続的なコミュニケーションを実施しています。その結果、顧客満足度調査では高い評価をいただいています。 ➤顧客満足度調査 P18
従業員	持続的な成長を実現していくためには、長期経営戦略2033と紐づく人材の採用・育成・配置に加え、DE&Iの推進と、働きやすく、働きがいのある魅力ある職場づくりに取り組むことが不可欠です。企業風土調査のエンゲージメントスコアをサステナビリティ目標の一つとして設定し、目標達成に向けた取り組みを進めています。 ➤人的資本戦略 P59
取引先	シスメックスの事業の方向性や方針をご理解いただくとともに、信頼関係を構築し相互に発展することを目指して、継続的な対話を実施しています。サプライヤーに対しては、循環型社会の実現に向けて、コミュニケーションを強化するほか、調達方針に則ったサプライチェーンマネジメントの構築を進めています。
株主様	シスメックスは、IR活動を持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けた重要な活動の一つであると認識しています。積極的な情報開示を行うとともに、株主・投資家の皆さまとの対話で得られた評価やご要望は、迅速に社内ですら共有し、経営・IR活動に反映しています。近年では、資本効率向上や中期経営計画のローリング見直しに関して投資家の皆さまから示唆をいただき、取り組みに反映させました。
社会	医療の発展や持続的な社会の実現に向け、政府機関や国際機関などと連携・対話を行っています。さらに、社会貢献方針に基づき、世界各地で地域のニーズに応じた社会貢献活動を通じてコミュニケーションを行っています。

用語集

EMEA	欧州、中東、アフリカ地域
FCM (Flow Cytometry)	微細な粒子を流体中に分散させ、その流体を細く流して個々の粒子を光学的に分析する手法
IVD (<i>in vitro</i> diagnostics)	一般的には、血液や尿などの検体を用いて身体状態を診断する体外診断を示す。または、体外診断を行うために実施される検体検査の領域
OSNA (One-Step Nucleic Acid Amplification) 法	前処理工程の一部である核酸の抽出・精製が不要で、ワンステップで遺伝子増幅を可能とするシスメックスが開発した技術
検査センター	医療機関や研究機関などから検体検査を受託し、検査業務を専門に実施する企業
検体	検査に必要な材料。血液・髄液・膿・尿・便など
試薬	検体検査に用いられる医療用医薬品のことで、体外診断用医薬品ともいわれる。人体に直接使用されるものではなく、体外に取り出された血液や体液に使用される
精度管理	検査機器の測定値を保証するための管理手法。お客様の検査機器が正しく機能しているかを確認すること。 なお、外部精度管理とは、複数の臨床検査室に同一の試料（人工的に作られた血液など）を配付し、回収された測定結果を統計的手法を用いて解析することにより、各検査室の測定結果の精度を評価する手法のこと。結果は各検査室へフィードバックされ、検査の質向上に役立てられる
尿沈渣検査	尿に含まれる血球や細胞などの有形成分を分析する検査。一方、尿定性検査は、試験紙を尿に浸し、尿中の糖・タンパク・血球の有無などを分析する検査
濃縮試薬	従来の試薬を濃縮したもので、検査システムで自動希釈調整して使用される
パネル検査	複数のマーカーを一度に測定する検査。特にゲノム医療においては、診療上重要な、遺伝子の変異・増幅・融合を複数同時に解析することができる検査のことを指す
搬送システム	複数の検査機器を連結し、検査の自動化を実現するシステム。自動化による検査業務の効率化に加え、検体取り扱い時の感染リスク軽減や検体の取り違い防止にも貢献
プライマリケア	患者さんが何らかの不調を感じた際に、診療所などではじめにかかる初期診療のこと
ヘマトロジー (血球計数検査)	血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査
薬剤耐性	生物が自分に対して何らかの作用を持った薬剤に対して抵抗性を持つことで、これらの薬剤が効かない、もしくは効きにくくなる現象。この薬剤耐性を獲得した細菌のことを薬剤耐性菌という
薬事承認 (製造販売承認)	日本で医療機器・試薬などの製造販売をするにあたり、厚生労働省から求められる承認。製品の性能や安全性などが確認される。 なお、各国での製品販売については、米国では食品医薬品局 (FDA) の承認、欧州ではIVDD (体外診断用医療機器指令) やIVDR (体外診断用医療機器規則) などの規則や基準の適合を示すCEマークの取得、中国では国家薬品监督管理局 (NMPA) の承認などが義務付けられている

株式情報 (2025年度末時点)

■ 株価



■ 株価の推移 (最高値・最安値・終値・ボラティリティ)

年度	最高値 (円)	最安値 (円)	年度末 (円)	ボラティリティ (%)
2015	8,640	5,430	7,040	39.2
2016	8,170	6,010	6,750	29.9
2017	9,730	6,080	9,640	24.7
2018	11,110	4,810	6,690	38.7
2019	8,420	5,814	7,846	38.3
2020	13,310	7,024	11,925	27.7
2021	15,725	7,970	8,923	41.6
2022	9,815	7,380	8,643	41.0
2023	10,440	2,637	2,662	29.8
2024	3,236	2,138	2,837	29.0
2025	2,867	1,268	1,369	40.1

(注) ボラティリティは日次終値ベースの標準偏差を年率換算
※ 株式分割を2024年4月1日付 (1：3) で実施 (実質的には3月末)

■ 株主総利回り (年率換算) (TSR※) (%)

投資期間	1年	3年		5年		10年	
	累計／ 年率	累計	年率	累計	年率	累計	年率
シスメックス	△50.6	△50.2	△20.8	△63.3	△18.2	△35.3	△4.3
TOPIX	34.6	87.4	23.3	102.2	15.1	228.2	12.6
TOPIX (電気機器)	32.8	75.7	20.7	85.1	13.1	333.5	15.8

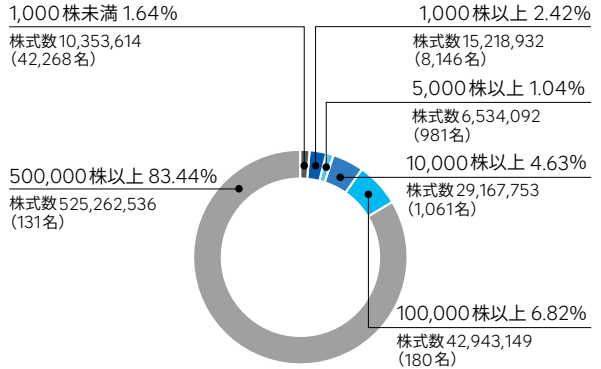
※ TSR：キャピタルゲインと配当を合わせた、株主にとっての総合投資利回り
・日経NEEDS-FinancialQUESTデータをもとにシスメックス作成
・基準日は2026年3月31日
・TSRは配当を株式に再投資するものとして計算

■ 大株主 (上位10名)

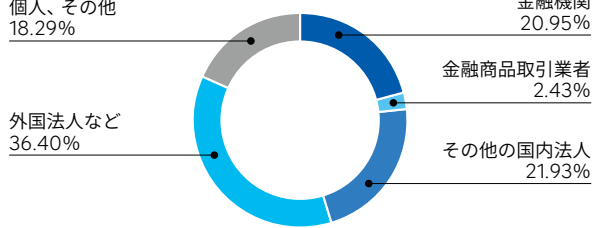
株主名	持株数 (千株)	持株 比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	72,152	11.52
公益財団法人中谷財団	38,692	6.18
公益財団法人神戸やまぶき財団	36,000	5.75
有限会社中谷興産	34,341	5.48
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	29,830	4.76
家次 和子	20,909	3.34
和田 妙子	19,489	3.11
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	16,749	2.67
ルソール株式会社	14,250	2.27
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS	9,781	1.56

(注) 持株比率は自己株式 (3,039,291株) を控除して計算しています。

■ 所有数別分布状況



■ 所有者別分布状況



会社情報 (2025年度末時点)

シスメックス株式会社

設立	1968年2月20日
本社所在地	〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
お問い合わせ先	IR部 Tel：078-265-0500 (代表)
Webサイト	https://www.sysmex.co.jp/
従業員数	11,731名 (連結) (嘱託およびパートタイマーなどを含む)
決算期	3月31日
定時株主総会	6月
発行可能株式総数	1,796,064,000株
発行済株式総数	629,480,076株
資本金	148億9,851万円
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6869
株主名簿管理人	三菱UFJ 信託銀行株式会社
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ
格付	AA- 格付投資情報センター (R&I)
主な採用インデックス	Dow Jones Best-in-Class World Index Dow Jones Best-in-Class Asia Pacific Index FTSE4Good Index Series FTSE Blossom Japan Index FTSE Blossom Japan Sector Relative Index Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index MSCI ESG Selection Indexes MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数 MSCI日本株女性活躍指数 (WIN) S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数 ISS ESG「Prime」Status iSTOXX MUTB Japan プラチナキャリア 150 インデックス



≫ Webサイト>サステナビリティ>社外からの評価